

徳治五年の誕生と云ふよりて精妙とゆり又徳
流のう術を奥旨を窺ひとすと云事勿一貫
草創中たゞ神妙とゆり毛穀^{モコ}より志の毛穀^{モコ}
毛穀^{モコ}もあらじや且^{アシ}御月奥村右京仲之をまつて
て我武道を身じて和^ハとエムと實は人傑
なり名譽六發而年十二月毛^モ日享五年又
十九丹羽日置田少^{シテ}死

中川將監重清

中川將監源重清者始仕織田信長公有勇才且善
射後奉仕

東照宮

台德大君

台德大君毎被召重清於營中試射術其子龙平太
重長繼箕裘藝又從吉田大藏茂氏吉田六左衛門
重勝伊丹半光衛門直政各得其宗伊丹者吉田印
西門人也後因

大猷大君之命言上其技術

西尾小光衛門重長

西尾小光衛門源重長者奉仕

台德大君

太猷大君居江戸從吉田大藏茂氏悟其微妙謂之
大藏加賀傳後重長授與其術妙於大庭軍大夫景
重平澤助左衛門吉重大庭者仕松浦家在西州後
致仕居平安城平澤者仕關宿侍從久世廣之元祿
五壬申年十二月廿六日死

森刑部直義

森刑部直義者父曰小太夫仕田中兵部大輔吉政
居筑州久留目領采邑千石後致仕居江州直義移
居平安城從吉田六左衛門入道雪荷學射悟其妙
始仕酒井宮内大輔忠勝後仕松平備前守隆綱其

子刑部徃直其子刑部直平繼箕裘之藝又有鳥居
佐五右衛門勝正者與直義共學射於雪荷入道爲
精妙社内藤豊前守信照後薙髮號一泡

山口軍兵衛

山口軍兵衛者從吉田印西得授受固精射也或曰
遠矢到四町貫柳梢印西甚賞美之不拔其矢伐其
柳書天晴之二字而授山口云後仕宰相忠直卿於
蓮華王院射通縫縁十間以發其名

小川甚平

小川甚平者不知謂何國人也射於蓮臺野而發其

射名關白秀次公賞之賜黃金云云

家重傳書曰關白秀次公之子秀忠天皇御
田北西三十六地弓としのまよおる三百弓三
束通と而後總合束との弓弓くられ奉事
度之右近の弓場二百二十弓也蓮華院或而它十
弓也關白秀次公蓮華院町也れら判金十枚を
へて町の通へ矢と射付する者又其枚宛ち
トする事也汝射金を枚五つ者小川喜平と
や仁うとうする事也又大和郡山下海江とテ不
武百又十三弓是より東夷藩より射り所とが矣

朱さうりがて也其矢頭と關北廠多良とテ仁村
けづる換沙汰仕ひゆど也然也

木村伊兵衛

木村伊兵衛者精射也天正年中於蓮華王院始射
通縫縫三間後白川仁兵衛關六藏黒田弥七吉田
五左衛門山口軍兵衛淺岡平兵衛等各射縫縫星
野小左衛門姫助右衛門者射通縫縫三十間而發
射名於華夷

家重傳書曰縫縫射通縫射也初天正丙未家の
人木村修家とテ仁うとうること跡さうり云々の縫

射連射する事と被差失の若狭へ仕を失ひ種く
切落すの事も考へて當時本村修氣は射る也
極又絶縁あると射さうるが爲め連射連射と至
演十弓總て射る所後此紀修ち度在吉田又馬
越方前吉田守の男子山口軍三東尾別名竹林寺
之法恩平氣在て五十万連射通じ至外家
乃人作森鷹舟と圓と義とや代の方連射連
國守子向川大氣とや仁士の連射連射と考
貴子系の人馬田説七とや大士の連射連射と右乃
介七弓連射連射と左又一考右又射て四又年也

而ま考徳才子を以佐幸文とや仁玉治
射弓大矢如事首乃の御網と云た左幸文射社
主の事と告人參るる射主也哉而左の事候
ハ徳縁私さうりよ徳やうひく事とやあがわち
乃柱大射とお雲の縁より射とり縁ぐに
十一弓連射四弓と射る所と色通矢を筋毛
左の事に左幸文とて徳縁と事と通けの事射
童一首 並に力いきとら御事に當り射けと
あらへた事又こそ考徳やう半弓とぞ一弓と
半とあらへた事とての事とて徳と一弓と考え九

也乍々徳縁うへふ絶へる事と説玉の村
左守及射より濱壯紀伊ち處前十二弓継射
通せば越あら后十弓継射通とほよひあれり
わらき十九弓まきをすてあらいて射通と
多は墨地小鳥の極助を馬とヤハ人へものつ
わらき十九弓まきを馬わ十弓筋と三十間継
射通とくよ射毛ち葉て徳縁とマサヘ矢
子一弓射りけて通と事つゝうのねとマサヘ
矢殺射り事ふ仕つる事也

今熊野猪之助

今熊野猪之助者平安城人也天正年中始射於蓮
華王院此堂前草射之起也

京重曰嘗と射色射うへ天正ノ中既今然地猪
助と云者也

夫殺状曰三千弓雲射社一起へ東山今然地
貌高雲乃別道かふうの坊とやんぢと
云ゆて八坂大吉様と射のへとせうりゆう小
三十三弓雲又補之射てうり矢かく射そめよ
之事おもふとも也是日今然地猪之助之
事也

淺岡平兵衛

淺岡平兵衛者尾州濃須人而習射於竹林如成廢
長十一年正月十九日於蓮華王院射通五十一本
丸堂射而美一ニ者盡觴於淺岡而後上田角兵衛
筒井傳兵衛鹽屋覺龍衛門吉田五龙衛門柳田次
龙衛門日置清須伴半右衛門堀江助右衛門糟谷
九郎下村忠右衛門山田半内杉山三右衛門吉田
小龙近大橋長藏高山八右衛門吉井助之丞長屋
六龙衛門吉見喜太郎星野勘龙衛門葛西蘭右衛
門和佐天八都二十六人謂之堂前大射手或稱京一

或書曰京之三十三弓堂中矢教と用事先
全くうの通の脚とへてあるいんとがもへよ右に弓
を学ぶるのとあともうして矢教とえどんせ
をその筋へ申りと云ひのひまきあそべりかされ
ハ弓アラミテ矢也放わづりと教むる時ハ筋
うと手一勅弓又立放わづりとすとさる時も
ら道自とさす矢教と云ひのひうとんあわ
玉矢教とおとさる時ハ力とくと勅てもあどつ
りに放はう道自とさすとくとくとくとくと
中弓附へ矢教と云ひのも自然とおこゑつてま

因よきへ一々書くべ錦絣の事と御の事はさ
を主とせど力の弱がゆえにやうやうと云ひ
ほとの筋のわけれ淺深とあり御はす今世人失
教と失教の事とらば道とかかへる乞力と勢
道かればえども遙かへ一々書くとぞ其事と云
しる心を今う人の失教と用ひむかぬとあ
す失教の因ゆき落とさるがゆゑにゆうとちあ
してもまことに失教とかんづねり也御はま世の
人失教と失教を失ふ事へなるをとづる時
ち自らあの道廢はへて絶き前よりへづる

きハ失教と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
し孔子曰う射は失一焉すよ射アリ節と云ふ
したる時へ却て孟子が事と云ひ實はう
と孟子さんきのへうんそひ言わんやさればま世の
ちよがふら若へ他の耳固と雖、うん事と云ふ
巧と云ふからしてがる事ニ極との奇物と巧出
一室はうながすも失也とゆる人稀なり是
放つませりも秋らが處へと云ふはじ夢の義教
と多くあへる者とゆく天ト一人のまくこと
あへ放つま世はまうがくへてぢ事と云ふ事

ら通れぬと申す也
の事もあり中頃日を吉日の射はる處裏因のまゝ移りて古今考へ
る所のよ近代の空あとのとゆへて日本古の射はる所くとくとす古代
を以てのう法へ假る者も無く人皆いわう人う始さんむとひに十二
三歳の少くとてま實と射はる事すより一より一室下村のふあると日
本の罪人
と申す也

卷之二書曰う道は紀德軍用と申としる者又
とせの射はま射つてかわると被射ふとモ
らと只極奥のうけ的とゆり射くへ然うの左尾
とあやう脚而的と射すくは
もするうちれまくへまはと申ふ被射大追あ差掛流病るゝとくの弱
とてもがむ堅多きれへ至射法と多く人うだまくへらうる書矣
段多くへてら筋と舞へててたよ筋へててたよ筋へててたよ筋へててたよ筋
やまとると云ふう道の奥起らきつててあがくす



本朝武藝小傳

三

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

281



武藝小傳卷之四

馬術

馭法者 本邦自往古而爲武事始故其法之傳授有諸家京都將軍家未天下大亂諸家各失家傳偶僅存者小笠原家馬術而已故諸士皆因之大坪慶秀拔諸士而得精妙八條江州悟微妙緒各皆建丁家法方今之世謂馬藝者不外大坪八條故以大坪八條爲騎法中興祖大坪式部大輔慶秀

大坪式部大輔慶秀者或廣上總人也始號孫三郎